

# 影響と今後 新型コロナウイルス感染症拡大の

ゴルファー 1人1人がゴルフを支える存在。  
一緒になってゴルフを守り、  
コロナ禍からの復興を目指しましょう



マスクを着用するなど感染予防対策を講じながらインタビューに答える山中専務理事

——新型コロナウイルス感染症拡大に対して日本および世界のゴルフ界はどのように動いたのでしょうか。

山中 R&AやUSGAは早い時期からコロナ対策のガイドラインなどさまざまな情報を発信していました。我々JGAも前向きなメッセージを出す準備はしていました。しかし、国から認可を受けた公益法人であるため、政府などの指示に従うということが基本です。政府が外出自粛を呼びかけているにもかかわらず「ゴルフは感染のリスクが高いスポーツではありません。こんな時だからこそ健康のためにもゴルフをしましょう」というようなメッセージは、出たくても出せないもどかしさがありました。ですから、当初はR&Aなどが発信している情報や取り組みを和訳してJGAのウェブサイトに掲載するなど、できる範囲のことをやるしかありませんでした。これに対して「なぜJGAはゴルフ界を守るために積極的に動かないのか」というお叱りを各方面から受けたという事実はあります。

新型コロナウイルス感染症拡大はゴルフ界も直撃した。実際にどのような影響があったのか、JGAをはじめゴルフ界はどのような対策を講じたのか、そして今後は——JGA 山中博史専務理事が語った。

——JGA加盟クラブからの声はいかがでしょう。

山中 今回、特に大きな影響を受けたのは全国のゴルフ場だと思います。緊急事態宣言中はプレーを控える方が増えましたし、コンペは軒並み中止。来場してもスループレーで昼食をとらずに帰宅するケースが増えましたし、ビジターの来場は激減。経営がひっ迫しているという声があちこちから届いています。海外ですと、たとえばR&Aは感染拡大の影響で経営が苦しくなった英国内のゴルフ場を支援するために700万ポンド(約9億1000万円=発表時のレートで計算)の支援基金を設立すると5月に発表しました。USGAも同様の基金を設立しています。彼らは全英オープンや全米オープンで得た多額の収益金を原資にできますから、正直、うらやましいところはあります。我々は先ほど申し上げたような事情で当初はなかなか動けず心苦しいばかりでしたが、JGA加盟クラブの皆さんに見舞金を出させていただくことになりました。金額的にはわずかですが、少しでも我々の気持ちを表すという意味だと、とらえていただければ幸いです。

——ゴルフ産業全体への影響も甚大ですね。

山中 その通りです。東日本大震災やリーマンショックを大きく上回る影響になると考えています。

——JGAあるいは各地区連盟主催の競技も感染拡大で中止を余儀なくされるケースが相次ぎました。

山中 はい。JGA主催競技で言いますと、4月27日に日本ジュニアゴルフ選手権、日本学生ゴルフ選手権、日本女子学生ゴルフ選手権、全国小学生ゴルフ大会の開催中止を発表しました。先にこれらの大会の中止を決定した理由はいくつかあります。選手の多くが未成年であること、全国大会を実施するにあたって各地区の選手権を開催する必要があることなどに鑑み、早くジャッジした方がいいと考えました。選手の皆さん、特に“最後の大会”となる高校3年生や大学4年生の選手には今も申し訳ない気持ちでいっぱいです。そして、6月5日の理事会では先に「10月以降に延期」とアナウンスしていた日本アマチュアゴルフ選手権、日本女子アマチュアゴルフ選手権を含むJGA主催アマチュア選手権全競技の中止を決めました。我々としては特に日本アマチュアゴルフ選手権と日本女子アマチュアゴルフ選手権は何とか開催したいという気持ちでしたが、各地区連盟主催の選手権の中止や第二波が心配される中で移動・宿泊に伴う感染リスクが払しょくできないことから苦渋の決断をいたしました。

——秋に予定している日本オープン、日本女子オープン、日本シニアオープンの3オープン競技は開催の方向ですね。

山中 ナショナルオープンは、ゴルファー NO.1を決めるその国のフラッグシップトーナメントですし、例え大会の規模を縮小してでも何とかして開催したいと思っています。ただし、多くのプロツアー競技が中止になったことなどから参加資格を変更して開催の準備を進めており、7月から地区予選を実施しており、8月下旬から最終予選を開催する予定です。

——コロナ禍はJGAの財政も直撃しています。

山中 我々の財政基盤は加盟クラブの会費、3オープンの事業収入、スポンサー収入などが主なものです。先ほど申し上げたように加盟クラブは苦しい状況に陥っていますし、多くのスポンサーも同様だと思います。それに加えて3オープンが中止にでもなれば、非常に厳しい状況に追い込まれます。ほかに国などからの助成金もありますが、今、国はコロナ対策に多くの予算をつぎ込んでいますから、どうなるか分かりません。今は削れるところは削り、支出を減らす努力をしているところです。他の競技団体の中には資金難で東京2020オリンピックに向けての強化に影響が出るどころか存続の危機に陥っているところもあるようです。

——その東京2020オリンピックですが、来年に延期となったことによる影響はいかがですか。

山中 会場に関しては変わらず霞ヶ関カンツリー倶楽部で開催することで合意しているので心配はしていません。我々としては選手が安心、集中して、快適にオリンピックでプレーできる環境を整えることに引き続き全力を尽くすだけです。

——将来オリンピックを目指すナショナルチームの選手たちの強化にも支障が出てきているのではないのでしょうか。

山中 国際試合も次々に中止や延期になりましたし、合宿もできない状況です。オーストラリアにいるガレス・ジョーンズヘッドコーチと選手たちをオンラインで結んで練習やトレーニング方法を提供したり、悩みを聞いてもらったりしているのが現状。チームメンバーたちは、せっかくナショナルチームに入って頑張ろうという時にこのようなことになってしまって、本当に気の毒です。





感染症防止対策をイラストで表現し、ゴルフ場・ゴルフ練習場・ゴルフショップ・トーナメント会場、その他ゴルファーとの接点となるポイントで活用して頂ければと考え作成された新型コロナウイルス感染症対策 啓発活動用ポスター

来ています。また、日本プロゴルフ協会、日本女子プロゴルフ協会、日本ゴルフツアー機構、日本ゴルフトーナメント振興協会、そしてJGAの5団体が「ゴルフ関連5団体新型コロナウイルス対策会議」を立ち上げて国内のプロゴルフトーナメントにおける共通のガイドライン作成に取り組み、5月20日に発表しました。ガイドラインは、状況に応じた内容に改訂を行っています。ガイドライン作成にあたっては、日本野球機構と日本プロサッカーリーグが共同で立ち上げていた「新型コロナウイルス対策会議」とも連絡を取り、多くのアドバイスをいただきました。我々のガイドラインの監修者である感染症専門医の炭山嘉伸東邦大学理事長も彼らから紹介していただきました。

——緊急事態宣言中にはゴルフ練習場にゴルファーが詰めかけて「密」の状態になっているというネガティブな報道もありました。

山中 あたかも「このような状況下でゴルフをするのはけしからん」みたいな、ゴルフを悪者にミスリードするような報道がいくつ

かあったのは事実です。これに対して全日本ゴルフ練習場連盟とJGAが共同で民放連（日本民間放送連盟）に「あのような報道は控えていただきたい」という内容の文書を送付いたしました。明確な返事はいただいていませんが、以降はそのような報道は減ったと感じています。

——緊急事態宣言が5月25日に全国解除されたことで、止まっていたものが少しずつ動き始めました。

山中 冒頭で申し上げたように当初はメッセージを出すことも難しい状況でしたが、スポーツ庁からもお墨付きをいただき、5月30日に「ゴルフを愛する皆様へ」というメッセージを発信することができました。内容は「新しい生活様式を励行しながらゴルフを大いに楽しみましょう」というもの。現在の状況下で我々ゴルファーが出来ること、守らなければならないこと、しなければならないことなどをまとめています。また、JGAウェブサイト各ゴルフ関連団体が独自に出しているガイドラインなどを一覧にしています。

6月に作られた2種類のデザインに追加して新たに作られた新型コロナウイルス感染症対策 啓発活動用ポスター 石川遼プロや渋野日向子プロも趣旨に賛同しポスターに協力してくれた



地域振興も含めてゴルファーの増加に繋げていきたいと考えています。

——日本では昼食休憩つきのプレーが主流ですがコロナ禍でスループレーが増えるなどプレースタイルに変化が表れています。

山中 プレー時間の短縮や他人との接触を極力避けるという観点からも、新しいゴルフの楽しみ方を構築できる可能性はたくさんあると思います。たとえばマッチプレー。2人でできる、ホールアウトしなくてもよいなどストロークプレーに比べてプレーヤー間の接触を避けることが可能です。もともとマッチプレーはゴルフの原点であるわけですが、この機会に是非、皆さんにも試してみてくださいと思います。ほかにもフォアサムやフォアボール、ステーブルフォードなどに挑戦してみるのもいいのではないのでしょうか。また、6月に再開した米国のPGAツアーでは感染防止のため選手がクラブを自分でバッグから出し入れするようにしています。ゴルフは本来、自分のことは自分でするスポーツ。原点に戻るきっかけになると感じていますし、そういうこともプロモートしていきたいと考えています。

——最後に、ゴルファーの皆さんにメッセージを。

山中 ゴルフは、若者男女が、三密を避けながらプレーできるスポーツです。各自でいろんな楽しみ方を見つけ、プレーを楽しんでいただければと思います。我々は、ゴルフの素晴らしさを知っていただくためにさまざまな発信をしてみたいです。ゴルファーの皆さん1人1人がゴルフ界を支えています。皆さんの愛するゴルフという素晴らしいスポーツを皆さんで守り、楽しんでいただければと思います。

——JGAが担っている各種のゴルフ普及活動も通常通りではなくなっていると思います。

山中 たとえば規則の普及に関してはオンラインを活用してスクールやテストを開催するなど、このような状況でもできることで地道に活動しています。ハンディキャップでは今年から世界統一のワールドハンディキャップシステムが稼働しました。日本はテキストの和訳やシステムの改修に時間が必要なため秋ごろのスタートに向けて準備していたところです。それが、コロナの影響で止まってしまう、各地区への普及活動も滞っている状態です。このままではスタートを先延ばしせざるを得なくなりそうで、今、R&AやUSGAとも相談しているところです。

——さまざまなコロナ対策において他のゴルフ団体、あるいは他の競技団体との連携の重要性が増したと感じますが、いかがでしょう。

山中 国内のナショナルフェデレーションのオンライン会議などで、競技団体同士の情報交換はしっかり出

——そのメッセージに付随してゴルフ関連16団体で組織する日本ゴルフサミット会議で「新型コロナウイルス感染症対策啓発活動用ポスター」も作成しましたね。

山中 はい。ゴルフ界が一体となって取り組んでいきたいと思います。ようやく、このような活動ができるようになってきたということですね。石川遼プロや渋野日向子プロにも協力していただきとてもありがたかったです。今回のコロナ禍で改めて感じたのはゴルフ界がひとつにまとまることの大切さです。これは、私だけでなく各団体の皆さんも口にしていることです。こんな小さな国なのにたくさんのゴルフ関連団体があり、人もお金もバラバラに動いている。非常に無駄があるわけです。今回サミット会議でポスターをつくる、あるいは5団体と一緒にプロゴルフトーナメントのガイドラインをつくるなど、ひとつにまとまる下地ができたのではないのでしょうか。これをきっかけに本当の意味でひとつにまとまるべきで、JGAがその中心的役割を果たしていかなければならないと感じています。

——これからは「withコロナ」の時代だといわれています。その中でJGAが果たすべき役割をどのように考えているでしょうか。

山中 ゴルフ場やゴルフが持つ社会的貢献機能をもっと知っていただけるようにアピールしたいですね。ゴルフ場利用税問題や国家公務員倫理規程（公務員は利害関係者とゴルフをすることが禁止されている）など、まだ一部でゴルフはぜいたくなスポーツで、過剰接待等の悪の温床だというイメージが残っています。何故ゴルフだけが他のスポーツと違う差別を受けているのか？そういうことを払しょくしなければならない。たとえばゴルフ場があることでその地方の雇用や地産地消、道路の整備などに貢献していることや災害時の拠点として活用できることをアピールしていきたいですね。また、ゴルフ場は自然破壊の元凶という間違った認識があります。ゴルフ場は生物の生態系維持に非常に役立っていますし、二酸化炭素を吸収して酸素を出すという大切な役割も果たしています。そして、健康寿命を延ばし、認知症予防としてもゴルフは大きな効果をもたらすことが世界でも証明されつつあります。我々JGAはゴルフの普及、振興を進めることが大切な役割ですから、このようなゴルフの社会的貢献機能を広め、